

あはっさ

アマゾン語ご vol.19 地の精霊

特定非営利活動法人
熱帯森林保護団体
Rainforest Foundation Japan
〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20
TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913
xingu@rainforestjp.com www.rainforestjp.com

HOW TO HELP

<年会費>大人:¥5,000 18歳未満:¥3,000

・郵便振替 00140-3-144187 热帯森林保護団体

・三井住友銀行 東京中央支店
(普)7066247 热帯森林保護団体

*銀行からお振込の方は、
お名前とご連絡先を別途必ず当団体までお知らせください。

アマゾンの森を守りたい 私たちを助けてください!!

当団体の運営資金が底をつきそうな
厳しい状況にあります。

昨年は収入より支出が多く、2015年の繰越金で賄いました。

長年頂いていた助成金も打ち切られ、

他の助成金も減額されました。

「消防団事業」と「養蜂事業」の支援事業は
確実に成果をあげています。

酸素を創っている森を守る私たちに、ちょっとのお金でも
沢山でも支援して頂けたら嬉しく、ありがとうございます。

皆さまのご協力、ご賛同があってこそ

アマゾンの自然が残ります。

どうぞ、どうぞお助けのほど、宜しくお願ひ申し上げます。

地球という星に間借りしている人間たちが、一部の人たちの欲で大変な方向へと進んでいるように思えます。アマゾン支援を続けて28年が経ち、ジャングルで平和に暮らしていたインディオの人たちにも大きな変化が起きています。しかし、自然に対して畏敬の念を抱き、足る事を知った営みは継承しているように映ります。

経済優先の論理は自然を壊し、物質的な豊かさを得ますが、人間の身の丈を越し、心が置き去りになり彷徨うことにもなりかねません。正にいま私たち文明社会が抱える様々な負の出来事が、未来に対して警鐘を鳴らしているのではないでしょうか。

支援している「消防団事業」はインディオの若者が主体性を持ち、森を火から守るためにプライドを持って命がけで向き合っています。昨年、シングー地域で約7,000ヶ所火災が発生しましたが、「消防団事業」を実施しているカヤボ地域では火災が広がらませんでした。この火災の原因も元を正せば、物質文明を支えるためにジャングルを壊し牧場や大豆畑に様変わりしたことになります。全てをお金で換算し、それに伴う利権や権力で自然の法則が崩れていきます。しかし、貨幣制度が完全に確立していない地域を守るには、資金が必要だと言う矛盾をいつも抱えていることも事実です。

私たちはこの星以外では生きていけません。次世代に何が大切な事なのかを伝える役目があります。微力ながら、人として恥じない生き方をアマゾン支援を通して学び、支援事業に精進して参ります。

6月に31回目のアマゾンへと出発し、8月にジャングルの「蜂蜜」を背負って戻ります。 (南 研子)



シングーインディオの祭り

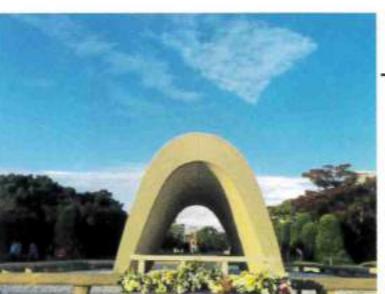


残っている森と伐採された森の跡地 Photo: Satomi Shimogo

ブラジルアマゾンの森林破壊が前年より29%増加!!

アマゾンの熱帯雨林の2/3を占めるブラジルアマゾンの森林破壊は、NASA衛星画像の分析によると過去8年間で最大となり、前年より29%増の7989平方kmで2012年に比べると75%増加した。

最大の原因は穀物メジャーの大企業カーギル等のアグリビジネスによる大豆生産の拡大によるものだという。
<NGO「ウータン・森と生活を考える会」の記事から抜粋>



“広島の被爆体験から、平和への想い”を考える講演会

広島の原爆投下から70年余り経ちます。長崎と合わせて原爆体験は日本人だけです。あれだけ悲惨な出来事があっても、今なお戦争は終わりません。それどころか、益々国防の名の下に日本も軍事費の拡大を図ろうとしています。いつも犠牲になるのは一般の人々です。

私たちごく普通の人間は、人生を穏やかに暮らしたいと思い生きていると思います。ごく一部の力ある人間の意志で政が進む怖さを感じますが、その人たちを選んだ責任も私たち一人一人にあります。悲惨な出来事も時間が経つと薄らぎ、忘れ去られていき、特に戦争経験が無い世代は、現実にこの日本で戦争があったことすら理解できないと思います。しかし、私たちは過去の惨事から「人間とは何か?」を学ばなければいけないのではないでしょうか。

原爆投下の日、正にあの場所に居た、90歳になる河野昭人さんの体験談を聞かせて頂ける催しを5月28日に行います。私たち団体RFJはひろしま支部を2003年に立ち上げ2度にわたり、アマゾンのジャングルからカヤボ族長老ラオーニを広島に招待しました。一度目は奇しくも原爆投下から60年目で、ラオーニは慰靈碑の前で「沢山の御靈が天に登っていく姿が見えた」と語っていました。河野さんは裏方で、私たちに多岐に渡りご協力して下さっています。

是非、多くの方に彼の生の声を聞いて頂きたい、そしてそのエネルギーを絶やす事無く次世代に伝えていきたいと思います。
<講演についての詳しい内容は同封のチラシをご参照ください>

RFJの研子さんを通してアマゾンのジャングルと繋がって27年程になります。会員の皆さんにむけてKAMALAの絵やカヤボ族のボディペインティング文様をデザインしてRFJサポートの為のオリジナルTシャツやバッグを制作してきました。遠いアマゾンでどんな人達がどんな風に暮らしているのか何も知らないまま始めたTシャツ作りでしたが、今では強い繋がりと懐かしさと尊敬の念を感じています。

特にカヤボ族のボディペインティングの文様には、強く惹きつけられます。これは、ジャングルの植物の実ウルケン(赤)やジェニバボ(黒)から採れる色素をオイルで練って細く削った枝で外向のように体に描きます。魔除けや戦いや儀式の為に、また色素が虫除けにもなるこの文様は、森水地や動物の精霊をモチーフにして、余計なものを削ぎ落とし簡素で力強い線と面でシンプルに描かれながらも圧倒的な迫力があります。文様を原稿作りのために描き直していると、それを持つエネルギーが伝わってきて何かに守られ自分にも力が湧いてくるような不思議な感覚になります。ボディペインティングは、描き手や描かれる者や描く時やその目的によって有機的に変化して、その時だけの『今』となる。子供達は母親に描いてもらう間中じっと動かずに我慢して、顔や体に勇ましい文様が現れる。さしつめ日本なら仮面ライダーかウルトラマンかもしれないけれど、アマゾンの子供達も自慢気で嬉しいに違いないと私は勝手に思っています。青年達はお互いに描き合い、敵や動物と対峙する時の装束です。ジャングルの火災のための消防団の青年達の頬にも文様は描かれていたと研子さんから聞きました。政府やジャングルを荒らす者達と戦う時も顔や体にペイントし精霊の力を身に着けます。

目に見える世界と見えない世界が同じレベルで生活の中に在るジャングルは、システムの中で本来の感性を失いつつある私達に、生きる為の酸素だけではなく根源的な生命の在り方を伝えていると感じます。

明日への不安ではなく今日の今すべき事を知りそして感謝する。

アマゾンの全てを代表して長老ラオーニは森を守るために遠い日本に3回も訪れ『ジャングルの保護』を訴えると同時に『全ては自分の中にある』と教えてくれました。試行錯誤しながら形にして身近なものに置き換え、アマゾンからのメッセージを伝えるお手伝いができるのをとても嬉しく思っています。夏に向けて新作をRFJとコラボで計画中です。待っていて下さい。皆さんにも森とインディオのエネルギーを近くに感じて欲しいです。

そして遠いアマゾンジャングルの精霊さんやインディオの方達に森を守る思いを寄せたいです。いずれ私も研子さんから聞いた、『ジャングルにゴー———と音をたてて沈んでゆく真っ赤な夕陽』を見に行きたいと思っています。



右下:蛇や豹のボディペインティングを施した、
インディオの男性たち
真ん中:カヤボ族のボディペインティング文様(亀)
上:アマゾンシナーの夕日



* おめでとう *

2014年に来日した際、「自分たちの世代はペンと紙を武器に意見をアピールしていく。」と語ったラオーニの孫、ベポー・メトウティレがブラジルのゴイアニア連邦大学に合格しました！



Photo: Satomi Shimogo

「出会いを通して」

RFJニュースレター“あぱっさ”の編集作業のお手伝いを始めて今回で7号目。毎度てんやわんやで四苦八苦の編集・発送作業ですが今回もこうして皆さまへお届けすることが出来ました。私は10年前に高校の時の先生を通じて研子さんとお会いする機会を得て、今では公私ともにとてもお世話になっております。

2014年のラオーニ来日の際は、カメラをお供に彼らと数日ですが寝食を共にしました。ラオーニが私につけてくれたカヤボの名前は「アナペ」。なんだかかわいいその名前は“伝承する人”という意味があるそうです。名前をつけてくれる時、私の目の奥の奥を覗きこむように見ていたラオーニの瞳を私は生涯忘ることはないでしょう。

行動を共にし、それまで写真や想像の向こう側だったインディオの存在が、「今日も元気にご飯をいっぱい、たらふく食べるかなー」と想いを馳せるような、ちょっと遠くに住んでる友人のような存在に感じるようになり、それと同時に、改めて彼らが直面している現実を考えるとはがゆさと申し訳なさ、そして疑問と悲しさでいっぱいになります。

ラオーニ、ブライリ、ベポーの3人の来日最後の東京講演の際、インディオの現状がまとめられた映像を見ました。スクリーンには切り倒される木々、燃えるジャングル、巨大な牧場、政治家に訴えるラオーニの姿が次々と映し出されます。今まで何度も目にしたその映像でしたが、彼らと一緒に空間で改めて見てると「3人は今からあそこに帰るんだ。」と痛感し、胸がえぐられるように涙が溢れてきたのを覚えています。優しく愉快で時に厳しく強い彼らを一部分でも身近に感じるようになって、やっとわかる現状の辛さ。ラオーニが何度も話す、「全ての人に大切な森を守ってほしい。」というシンプルな訴えが心に刺さりました。

研子さんと出会い、さらに普通では出会えないであろう人たちと繋がった出会いを通して、アマゾンとブラジルと日本、そして世界と日常生活の間で揺れ動く気持ちを感じる毎日です。インディオのようにしなやかに強い芯の通った心を持って生活を送れるようになるのははてさていつになることやら。まずは研子さんや事務局スタッフのヤッピさんから学んだ、「見えにくくなっていくばかりの物事をシンプルに捉え、日々切磋琢磨していく。そしてご飯を美味しいいっぱい食べる。」という姿勢で私も日々を過ごし励んで行こうと思います。

当団体設立当初から応援してくれているカコヨ、熱きえ息のナオミさん。
といひぬ倒むニースレーパー時代の国籍不明のみな衆の喜び笑顔の喜びちゃん、
ズニバウラのメッセージです。

2016年会計報告

2016年1月1日～2016年12月31日

<収入の部>

2015年繰越金	¥ 9,051,254
年会費	¥ 1,905,000
寄付金（企業・個人）	¥ 11,419,009
寄付（熊本ナチュラルコーヒー応援金）	¥ 999,700
物販費	¥ 505,675
助成金	¥ 3,838,000
(エキスパート福祉支援協会／連合／内田エネルギー科学振興財団／セディナ地球にやさしいカード)	
利息	¥ 439
計	¥ 27,719,077

<支出の部>

現地支援金	¥ 10,564,368
他団体賛同・支援金	¥ 75,000
他団体支援金（熊本ナチュラルコーヒー応援金）	¥ 1,049,700
役務費（アルバイト代含む）	¥ 4,225,000
家賃	¥ 2,990,000
通信費（国内／国際電話、FAX、切手、送料）	¥ 539,737
コピー機、FAX レンタル料	¥ 294,449
消耗品、事務用品	¥ 35,316
資料作成費	¥ 94,878
外注費（販売用書籍、販売物等製作費）	¥ 89,910
外部委託費	¥ 660,000
交通費、宿泊費	¥ 225,016
会議費	¥ 338,184
備品費	¥ 12,448
雑費	¥ 192,166
銀行／振込／両替手数料	¥ 216
次期繰越金	¥ 6,332,689
計	¥ 27,719,077

2016年事業報告書

2016年支援金計 ······ 10,564,368円

1. 热帯林保全事業

一昨年から開始した「消防団事業」は乾期における火災の拡大を防止する目的で、先住民カヤボ族とジュルーナ族の若者の協力の下、先住民保護区での火災監視体制を強化する目的として、消火及び啓発活動を行った。マトグロッソ州消防署に勤務するアレサンドロ・マリアーノ・中佐が消火技術をインディオの若者に指導すると同時に、長老たちから火に対する認識を修得するための講習を2週間、シングー地域中央に位置するピアラスで昨年8月から9月にかけて14集落から約30名招集し実施し、その期間当団体から2名の講習に参加した。消火訓練中でも火災が発生した場合現場に駆けつけ消火に当たった。昨年は雨季に雨が少なかった為に乾期での乾燥が異常で、支援対象地域の15%が自然発火等で消失した。しかし、この事業を実施している地域での火災発生の場合、迅速な行動で対応したので大火に至らなかったことは、この事業の成果だと確信する。消火道具、消防の為の衣服、水タンクやGPS等の購入はまだ十分とは言えない状態にあり、2017年度も引き続きこの事業を継続支援していく。

2. 経済自立支援事業

支援対象地域周辺の急激な開発により、この地域の生態系は変化してきた。シングー川源流近くや下流域に建設されたダムの影響で住民の食料源である魚も減少しつつある。森の恵みで育んできた住民にとって、将来の食料確保は深刻な問題である。幸いにも植物群が豊富な環境で開始した養蜂事業は余剰にて採取した蜂蜜を外部に出荷することを考慮し、状況は着々と進んでいる。今回養蜂を行っている7集落（マチブ、アウェチ、ナフクワ、カラバロ、ウワラ、カマユラ、イアラビ）から養蜂士20名をカマユラ族の集落に集め、5日間ブラジル人専門家ウェーメルソンの指導の下、講習会を実施した。当団体から2名参加し、共に将来の具体的な展望を討議した。部族の進捗状況は一律にはならず、部族長や村人の理解を求め、緩やかに継続していくなければならない。養蜂機材等の不足の充當や採取した蜂蜜の作業小屋建設等、資金を必要とする。新たな要因として、この地域にしか生息しない針無し蜂の蜜採集を来年度の課題とした。

3. 先住民伝統文化継承事業

外部のブラジル人社会の影響はインディオの若者にとって興味深いものがある。白人の文明に憧れ、インディオ独自の文化の継承が難しくなっている。カヤボ族リーダー、メガロンはこの対策として、新たなモデルケースの村を建設し独自の文化継承を試みる事業を開始した。自給自足を主とし、森で生きるノウハウを若者が修得する。町での暮らしに失望したインディオの若者たちがこの事業に参加することで、彼らの将来への展望を期待できる。昨年5月にパナマで開催された世界先住民祭に参加するためにカマユラ族、族長コックが招かれた。その際にかかる経費を一部負担した。

4. 医療支援事業

シングー地域の急病人緊急輸送等の支援を実施した。

5. 現地観察諸経費

国際航空運賃、ホテル代、食費、ブラジル国内交通費等。現地調達支援物資購入、先住民集落滞在に必要な備品費。

6. 離費

海外送金手数料、ビザ発行費、健康診断作成費、ブラジル連邦警察への特別ビザ作成費等。